

避難経路の確認

自宅から避難場所までの道を実際に歩いてみて、確認しておくことはとても大切です。普段、車で移動していると、見落としている危険があふれています。まずは、自宅の周りの危険な場所を確認しましょう。

- ① がけ崩れの恐れのある所はないか？
- ② 地盤は大丈夫か？
- ③ 倒壊の恐れのある建物はないか？
- ④ 危険なブロック壁、石塀、石垣はないか？
- ⑤ 看板、自動販売機など、倒れる恐れのある物はないか？



地震は、自宅にいる時に起こるとは限りません。職場にいるとき、子供たちは下校時に遭遇するかもしれません。職場の周り、通学路もチェックが必要です。

避難訓練では、自宅にいることを想定して、みんな揃って、さあ避難場所まで逃げましょう！という感じですが、実際は、家族みんなが、そろっているとは限りません。

子供が一人で自宅にいる時に地震が起こった時、一人で避難場所に逃げることはできますか？

学校から帰ってくる途中で地震が起こったらどこにどうやって逃げますか？

そういうことを子供たちと一緒に考えてみる、そしていざという時、子供たちがちゃんと避難できるように教育しておくことは、大人の責任です。ぜひ、子供さんと話をして頂きたいと思います。そして、ぜひ、実際に子供さんと一緒に歩いてみてください。



介護が必要な方、支援が必要な方についても、同じことが言えます。

いざという時どうやって避難するのか？

誰が助けるのか？どんな支援が必要なのか？

ということを、あらかじめ想定して家族や、ケアマネ、普段支援している人達で、話し合い、マニュアル化しておく必要があります。それは、家族や、支援者の責任です。

また、和合町自主防災隊としても要支援者の避難のために民生委員と共同で動ける体制をつくっています。

いざという時、地域みんなが声を掛け合い、助け合える関係性を普段から作っておきたいですね。